広報
中部の森林（もり）

国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/

立山で除去作業の様子

高山植物を外来種から守る除去作業

（Ｐ5に関連記事）

主な項目

○ 平成18年度中部森林管理局決算概要の公表 …… Ｐ２
○ 各地で会議、検討会が開催される …… Ｐ３
○ 各地からのたより …… Ｐ４

この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

『平成十八年度 中部森林管理局決算概要』

去る九月十四日、平成十八年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成十八年度の決算は、国有林野事業勘定と治山事業の統合を行った上で、抜本的改革の基本方針に基づき森林の公益的機能の発揮と財務の健全性の回復に努めた結果、収支では二十八億円の収入超過となりましたが、損益計算上では、二十九億円の損失となりました。

◆発生収支

収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、長引く木材価格の低迷の中、素材販売量の増加により、前年度より七千万円増の三十七億二千万円となりました。

林野等売払代等は、大型物件が少なくなるなか、廃止分局関連の土地等を売り払った結果、前年度より八億二千万円増の二十億九千万円となり、自己収入全体では前年度より九億円増の六十六億円となりました。

一方、一般会計からの受入金は、勘定統合に伴い、新たに治山事業費財源受入を計上したことや、公益林等保全管理費財源及び利子財源の受入が減少したものの、事業施設費財源が増加したことから、前年度より九十八億円増の百九十二億五千万円となりました。

また、新規借入金は前年度に引き続いてゼロとなりましたが、借換借入金は、前年度より八億八千万円増の九十四億二千万円となりました。

支出については、職員数の適正化等に努めたことや、退職金の減少等により給与経費等は前年度より五億二千万円減の七十三億四千万円となりました。

各事業費については、地球温暖化防止等に資する森林整備の推進が増加したことにより、前年度より二億三千万円増の七十億三千万円となりました。

借入金に係る償還金・支払利子は、前年度より八億五千万円増の百十億円となりました。

以上の結果、三百六十一億七千万円の収入に対し、支出は三百三十三億七千万円で、二十八億円の収入超過となりました。

◆損益計算

効率的な事業実行による事業経費の縮減や、収益の増加により、損益計算上の損失は前年度より四億二千万円減少して二十九億円となりました。

発生収支

(単位:百万円)

収入(36,176)		支出(33,372)	
林産物等収入	3,720	給与経費	5,513
林野等売払代	2,095	基幹作業職員給与	1,828
財産貸付料等収入	628	業務費	2,181
雑収入	156	森林環境保全整備事業費	3,721
一般会計より受入	19,257	林道施設等災害復旧事業費	319
事業施設費財源	(5,268)	その他	809
公益林等保全管理費財源	(2,913)	治山事業費	8,000
利子財源	(1,591)		
治山事業費財源	(9,485)		
地方公共団体負担金収入	797		
前年度剰余金	102	償還金及び支払利子	11,001
借入金(借換借入金)	9,421	収支差	2,804

損益計算

(単位:百万円)

費用(23,985)		収益(21,084)	
経営費	6,427	売上高	3,768
治山事業費	10,363	林野等売払代	2,095
		財産貸付料等収入	628
		一般会計より受入	13,476
		森林保全等財源	(2,913)
		治山事業費財源	(9,466)
		利子財源	(1,097)
一般管理費及び販売費	1,527		
減価償却費	3,826	地方公共団体負担金収入	795
		雑収入	156
資産除却損	501	前年度剰余金	102
		雑益	64
支払利子	1,068		
雑損	273	本年度損失	2,901

金額は、それぞれの科目で四捨五入しているので合計金額とは必ずしも一致しない。

各地で会議、検討会が開催される

伊那谷森林計画区の森林施業現地検討会

[計画課] 中部森林管理局では、「国有林の地域別の森林計画」、「地域管理経営計画」等の樹立に当たり、毎年森林施業現地検討会を開催しています。

今年は八月七～八日の両日、只木名古屋大学名誉教授、植木信州大学農学部教授の学識経験者を迎え、局長をはじめとし中部森林管理局、名古屋事務所及び南信森林管理署の関係職員三十五名と、長野県林務部からも出席をいただき、伊那谷森林計画区において、「ニホンジカの食害と急傾斜地での間伐」、「ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植物群落保護林の新規設定」について検討会を開催しました。

「ニホンジカの食害と急傾斜地での間伐」は、シカ被害により植生が消滅した箇所では間伐を行い照度をあげても、再生する植生は食害にあい、土壌の保持力は向上せず急傾斜の箇所では林地崩壊も心配されますが、計画区内の人工林は八齢級がピークであり、今後も間伐を中心とした整備が必要となっていました。

学識経験者からは、「急傾斜の林分であっても、間伐の必要性に変わりはない。シカが影響を与えても我々は最善を尽くして森林整備をする必要がある。」とのご意見をいただきました。

学識経験者を囲んでの検討の様子

「ヤツガタケトウヒ・ヒメバラモミ植物群落保護林の設定」については、西岳国有林において環境省のレッドデータブックの絶滅危惧種にも指定されている貴重な樹種であるヤツガタケトウヒについての見識を深めるとともに、保護林に指定し母樹を保護することや、ヤツガタケトウヒの稚樹や幼樹を被圧している上木の除去等により育成を行うことを検討しましたが、具体的な区域の設定や、育成の方法については別途「植物群落保護林設定検討委員会」を開催して決定することとしています。

今後、これら検討会の内容を反映した計画樹立となるよう手続きを進めることとしています。

高山市、飛騨市、白川村の首長が一同に
～市町村長有志連絡協議会に向けて～

[飛騨署] 中部森林管理局の「国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」が十月に開催されることを踏まえ、八月二十九日、高山市、飛騨市及び白川村の首長が一同に会して意見交換を行いました。

意見交換は最初に前原署長から市町村長有志連絡協議会の取り組み状況や国有林及び森林・林業をとりまく現状等について説明しました。

説明のなかでは特に基本計画を踏まえ、低コスト作業のモデル事業や木材の安定供給の取り組みのほか、CO_2関連の森林整備の取り組み等、民有林、国有林が連携する中で率先して取り組んでいる状況などを説明しました。

各首長からはCO_2の取り組みのなかで、天然林の扱いや緑資源機構関連で緑資源幹線林道事業について地域として期待する意見など、短時間ではありました

意見交換をする各首長と前原署長

が意見交換しました。

飛騨森林管理署ではこのほかに三市村の森づくり委員会（飛騨市は「森林審議会、白川村は「美しい森林づくり会議」）に参画しており、今後とも地域要望に適切に対応し期待される国有林野事業として取り組んでいく考えです。

民・国が連携して

[富山署] 富山県地域振興団体協議会国有林野等振興部会に所属する市町村の担当課長会議を、県・市町の担当者十二名が参加して八月三十一日に早月国有林において開催しました。

今回の会議は、部会事務局から国有林の現地において担当者会議を実施してほしいとの要請を受け、国有林の取り組み実態を民有林関係者に知ってもらうための良い機会となることから実施したものです。

当日は、あいにくの雨模様のなか、午前中は立山川、白萩川における治山施工地や実行中の工事箇所を視察し、後藤治山課長から木材利用促進、特に県産材の利用を図るため、今年度から全ての谷止工において水表の型枠に県産材丸太を使用していることや、スリットダムの特徴などを説明し、参加者は渓床の荒廃状況や工事規模の大きさに驚いている様子でした。

午後は、馬場島荘で加藤署長から「美

しい森林づくり」やCO2対策としての森林整備の重要性から、民有林においても森林整備に積極的に取り組むことを要請するとともに、各担当者から今年度の事業概要や主な取り組みの説明を行いました。意見交換会では、民有林における森林整備の現状、国有林野事業が一般会計と独法化の分割によって官行造林の扱いがどのようになるのか等の意見が出され、最後に民国が一体となって地域の森林づくりを進めることを確認して会議を終えました。

流域管理調整官会議を開催

[計画課] 平成十九年度流域管理調整官会議を九月四～五日、飛騨署管内の民有林等で開催し、各署等の流域管理調整官、名古屋事務所、局の関係者が出席しました。

一日目は、飛騨高山森林組合が実施した間伐の現場と製材加工及び出荷までの流れを見学しました。

間伐の現場で説明を受ける参加者

現場は、林野庁が進めている新生産システム推進対策の岐阜広域モデル地域として岐阜県が取り組んでいるもので、山元においては、高密路網の整備、高性能林業機械を活用した作業システムによる列状間伐を実行。生産された丸太は、飛騨高山森林組合の木材製品流通センターで最新の高速製材ラインにより製品化され、乾燥を経て大手ハウスメーカーに出荷されます。

山元では、三人一班制で、伐倒はチェーンソー、木寄せ・集材はスイングヤーダ、造材・運搬はプロセッサ、フォワーダの組み合わせです。平成十八年度の実行結果では、生産性四・五立方メートルとなっています。

一方、丸太が搬入される飛騨高山森林組合の木材製品流通センターは、ノーマンツイン帯鋸盤などの最新製材機や乾燥施設を整備して、主に角材と板材を生産し、大手住宅メーカー等へOEM供給を行っています。今後の課題としては、山元において生産コストをいかに下げて、森林所有者に還元する分を増やすか、製材工場では、安定した丸太の受け入れと乾燥工程の改善が必要だということです。

二日目は、飛騨署会議室において岐阜県県産材流通課の荻巣技術課長補佐から「健全で豊かな森林づくりプロジェクトについて」と題して講話を受けました。

岐阜県では、これからの林業経営として、公的資金依存型の経営から脱却して、間伐の適正な実施、国産材需要に対応できる木材生産体制づくり、森林所有者に収益を還元できる木材生産費の抑制に取り組んでいるとの説明がありました。

引き続き会議では、流域管理アクションプログラムの実施状況、流域管理の推進に向けた現状と課題、局関係課からの情報提供など意見交換を行いました。

計画部長からは、新たな森林・林業基本計画の目指す方向、特に国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生が課題であり、流域管理システムに関する対外的な窓口の役割を担うとともに、その推進に係る企画、連絡調整に関する業務に取り組むよう指導がありました。

今回、二日間の会議を通じて、民有林における間伐の推進や国産材需要に対応する生産体制の取り組みの現状を知るとともに、岐阜県や森林組合の職員と具体的な話題について意見交換を行うことができました。

各地からのたより

森のクラフトと紙芝居で学ぶ森林の大切さ

[名古屋事務所] 八月二十六日「第五回森林ふれあい講座」を名古屋事務所において、名古屋市の熱田生涯学習センターと共催で開催しました。

当日は残暑が厳しいなか、五歳～七十一歳と幅広い年齢の家族連れが参加し、和気あいあいの雰囲気の中で開講しました。

はじめに森林の大切さを題材にした「森林（やま）からの贈り物」の紙芝居では、森林の役割や大切さを学びました。途中のクイズの場面では、小さな子供たちから元気の良い答えが返ってくるなど、最後まで興味深く聴き入っていました。

続いて行った森のクラフト作りでは、森林整備で搬出されたヒノキの輪切り板に自然の部材を使い、壁飾り作りに取り組みました。家族で相談しながら、バースデーケーキや、カタツムリなどの想像豊かな作品が完成しました。

この講座を通じ幼い頃から自然や森林とふれあい、これから成長する度にその役割や大切さをより一層身近に感じてもらえるとても良い機会になったことと思います。

お気に入り作品を前に

天生国有林でオオバコの除去作業
～森林官等の新たな発想～

【飛騨署】八月二十六日に、天生県立自然公園（天生国有林）において一般公募のボランティアの参加の下で、自生植物保護のためのオオバコの除去作業が行われました。

この取り組みのきっかけは、六月二十三日にシティ・フォレスター事業で行ったオオバコの除去作業が新聞報道され、地域住民から「都市の人がボランティアで遠くまで来てくれて、地元の私たちも協力したい。」といった声が寄せられたことから、「森林官等の新たな発想による取り組み」として飛騨市などへ協働の呼びかけを行ったところ、自然観察教育林としてのレク森の協議会でもある「天生県立自然公園協議会」として取り組むことになりました。

新聞報道や、市の広報等でボランティアの募集をしたところ地元飛騨市を始め高山市、岐阜市などから六十名という多くの方々が参加されました。

当日は、名古屋林業土木協会古川支部からも社会貢献活動として多くの協力があり、一般参加者の中には小学生や赤ちゃんを負ぶってのお母さんの参加も見られ、「人の手で変わった自然は、人の手で元に返してやらねば。」といった声が聞かれました。

また、これに先立ち七月二十三日には、飛騨市議会議員九名によるオオバコの除去作業も行われるなど、シティ・フォレスター事業を契機に森林官の新たな発想により地域の貴重な自然を地域で守るといった取り組みが確実に広がっています。

自然を守る人間に育てたいと親子3人で参加

木曽ヒノキの再生に期待して
～名古屋CFの開催～

【木曽署】九月一日、第十一回名古屋シティ・フォレスター事業を赤沢自然休養林内で行いました。約三百年を経過した木曽ヒノキ等の天然木の下層部は、アスナロ小径木やマルバノキ等の低木類が繁茂し、十分な陽光が当たらず、次世代を担う木曽ヒノキ等の稚幼樹の生育を阻害していることから、生育を促すための低木類の除去作業を二十名の隊員が参加して行いました。

赤沢森林鉄道の終点からほど近い冷沢峠付近を作業地としましたが、繁茂する低木類の中で埋もれていた切り株や地表からは、ヒノキ、サワラの稚幼樹が多く発生しており、踏みつけや傷つけて痛めないように足元をよく確認し、注意を払いながら慎重にマルバノキやシロモジ等を除去しました。

また、隊員の手際の良さもあって実施箇所が早目に終了したことから、引き続き、昭和六十年御柚始祭催行地においても同様に除去作業を行いました。

作業開始前には鬱蒼としていた林内も整然となり、木曽ヒノキの子ども達がすくすくと生長するには、十分な明るさを取り戻すことができました。

当署では、今年度三回目となるシティ・フォレスター事業で、これまで遊歩道整備（チップ舗装）を主体に実施してきましたが、隊員からは「やり甲斐もあり、楽しく作業ができました。」との感想が寄せられたことから、今後もこうした作業を計画していければと考えています。

ヒノキの子どもが育ちますように

貴重な高山植物を守ろう

【富山署】連合とやま富山地域協議会から地域ボランティア活動として森林に関わる作業を行いたいと申し出があり、猛暑が続く八月二十五日構成員約三十名が、立山黒部アルペンルート沿いの天狗平周辺で、貴重な高山植物を守るため、外来植物除去作業を行いました。

当日は、標高約二千四百㍍の国見駐車場に集合し、県自然保護協会の講師三名から、外来植物とは何か、高山植物との見分け方、採取するときの注意等の説明を受け、三班に分かれて作業を行いました。最初は高山植物を傷つけないよう苦労している様子でしたが、講師の指導により除々に慣れ、約二時間の作業でセイヨウタンポポやシロツメクサなど約千九百株を除去しました。

外来種除去の実施の様子

午後からは、室堂平周辺を散策しながら講師から、立山連峰の成り立ちや気象や地形の特徴、植生の生育環境の厳しさなどを学びました。

参加者からは、「外来植物が予想以上に多かった。」、「室堂平周辺をゆっくりと学べたのは良かった。」などの声が聞かれました。

今回は八月下旬であったため、花期も終り判別が難しい植物もあったことから、七月頃に毎年継続して実施することを約束して帰路につきました。

森林交流館に治山事業の効果を紹介する空間が完成

［愛知所］ 瀬戸国有林の森林交流館では、治山事業の保全効果等を紹介する工種模型を展示し、当施設の利用者から好評を得ています。

展示している模型には、ダム工・山腹工等の治山施設や、保全対象の集落・道路等が配置されており、パソコン操作により、液晶画面で治山事業のあらましを学習できるようになっています。

また、展示前にこの模型を使用して行った、土石流の実験映像の再現ビデオが見えるようにもなっており、治山施設の設置前と設置後における土石流被害の状況が生々しく再現され、集落や道路等の保全対象が、治山施設の設置によって、土石流被害から守られる様子が、分かりやすく紹介されています。

交流館の利用者からは、「治山工事の働きや効果がよく分かった。」、「土石流被害の恐ろしさを体験できた。」等の意見も寄せられており、交流館の展示コーナーの中でも、新たな人気のスポットとして注目を浴びています。

土石流の実験映像に見入る利用者

防災週間行事　局総合防災訓練を実施

［企画調整室］ 毎年、防災週間（八月三十日から九月五日）に併せ、局総合防災訓練を実施しており、今年は九月三日に実施しました。

今回は、七月に中越沖地震が発生し、局管内の一部地域でも最大震度六強を観測したこともあって、東海地震に加えて長野市付近でも大きな地震が発生したことを想定し、庁舎外での災害対策本部設置訓練及び情報伝達訓練を主体とした内容で行いました。

東海地震の警戒宣言（予知情報）が発表されたとの想定の下に、局警戒本部を企画調整室に設置し、本部長（局長）の指示により三部長、各課長等本部員らが集まり、職員の出勤状況の把握、緊急物資の確認、緊急車両の確認等を行いました。

続いて、東海地震が発生、局庁舎が一部損壊との想定の下に、災害対策本部を屋外に設置し、職員安否情報受理訓練、被害報告訓練、衛星携帯電話による情報伝達訓練等を行いました。

また、今回は長野県危機管理局と連携し、衛星携帯電話を用いた災害時の通信手段を確保する訓練も行いました。

地震は、いつ、どこで起きるか分からない災害です。被害をできるだけ少なくするためにも警戒態勢の整備及び災害時の対応ポイントの確認、徹底等、普段からの備えが大切であることを確認できた訓練となりました。

是非ご利用下さいませ！

皆様のご存知のとおり、「あさぎり荘」（下呂保養所）が、来年三月十日の朝食をもって、四十五年の歴史に幕を降ろすことになりました。

これに伴い、支配人から次のとおりご挨拶とご案内をいただきましたのでご紹介いたします。

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

あさぎり荘は、昭和三十七年五月に営業を開始し、皆様のお陰様をもちまして、本年で四十五年を迎えることができました。

この四十五年は、皆様に愛される施設として、職員一同、心を一つにして頑張ってまいりました。

しかしながら、諸般の事情により、平成二十年三月十日の朝食営業をもって営業を終了することになりました。

営業終了まで、お客様に喜んでいただけるよう、なお一層の努力をしてまいる所存でございます。

残り数ヶ月となりましたが、皆様方のご利用を職員一同、心よりお待ち申し上げております。

林野庁共済組合下呂保養所
支配人　坂本寛一

シリーズ⑮ 実験林・試験地等紹介

『ヒノキ本数密度実験林』

小川長洞国有林にある実験林のひとつに「ヒノキ本数密度実験林」があります。

この実験林は〈シリーズ⑪〉で紹介した「スギ本数密度実験林」と同様に、植栽本数密度が植付・保育などの作業功程や、間伐・主伐時の収穫量に及ぼす影響を調査し、適正な植栽本数を決定するための資料収集を目的に設定されたものです。

試験地は昭和五十八年から五十九年にかけ、植栽本数を変えた四タイプ（ヘクタール当たり二千本、三千本、四千本、五千本）の新植を行い、その後の保育作業については各試験地とも同様に実施し、生長状況等の調査・観察を行ってきました。

平成七年（林齢十二年生）と平成十七年（林齢二十二年生）に行った生長量や林木の形態的特性の調査結果をみると、本数区別のデータの差は、本数密度の影響効果が大きな要因となっておらず、現時点では、地力や林地方位などの環境的な要因の影響が生長状況に大きく反映しているものと考えられます。

今後は、当実験林に類似した植栽密度と林木生長に関する研究報告等を参考に観察を続けていくこととしています。

なお、この実験林を活用した「下層植生の発達を良好にするための本数密度試験」を課題に、ヒノキの成立本数密度の違いによる相対照度と、発生下層植生の種類・被度の状況調査を実施しており、その成果を中部局技術開発委員会に報告しています。

また、外部機関の研究フィールドとしても活用しており、名古屋大学大学院生命農学研究科による「間伐強度が樹冠の降雨配分に及ぼす影響の微気象学的解析」をテーマに、間伐が森林の水土保全機能に及ぼす影響について、気象観測や樹冠通過雨量等の樹冠における降雨配分を測定し、その影響を定量的に解明することを目的に研究がされています。

この研究成果については、平成十九年二月の中部森林技術交流会で発表されており、更に研究を継続することとなっています。《研究成果は平成十八年度中部森林技術交流発表集に掲載》

2,000本区

3,000本区

4,000本区

5,000本区

名古屋大学試験地＝樹冠通過降雨量観測装置

所在地：岐阜県下呂市小川
小川長洞国有林
1105たむ林小班

風景紀行（ふうけいきこう）

立山室堂

29

富山森林管理署
（各署の景勝地等を紹介）

立山室堂

みくりが池と立山

［富山署］立山は雄山・大汝山・富士の折立の山なみを総した名称で、古くから山岳信仰の山として崇められてきました。

最高峰は大汝山（三、〇一五メートル）で、主峰の雄山山頂（三、〇〇三メートル）には「雄山神社峰本社」があり、祭神に伊邪那岐命（いざなぎのみこと）と手力男命（たぢからおのみこと）が祭られています。

立山連峰一体は、ブナ坂国有林で、主峰雄山の直下の室堂平には、立山禅定者の参籠宿泊に供するために今から約四〇〇年以上前に建設された日本最古の山小屋「立山室堂」があり、現在は国指定重要文化財として保存されています。

立山の観光拠点となる室堂ターミナルは、室堂平の標高二、四五〇メートルにあり、年間一〇〇万人を超える観光客でにぎわっています。

室堂ターミナルから十分程歩いたところには、みくりが池があります。

みくりが池は北アルプスで最も美しい火山湖といわれ、周囲約六三〇メートル、水深約一五メートルの湖です。

みくりとは「神様の台所」という意味で、昔からこの池の清らかな水で雄山神社のお供えを作ったため、御厨ケ池といわれたとあります。

みくりが池から少し下ったところには地獄谷があります。

地獄谷は標高二、三〇〇メートル、灰白色の山肌、吹き上げる水蒸気がブツブツと泡立つ様はまさに名前のとおり地獄のような景観です。

地獄谷の各噴泉には八大地獄、各別所の十大地獄など合計百三十六地獄あるといわれており、有毒な硫化水素や亜硫酸ガスを噴出しているものもあります。

立山は今、紅葉の最盛期を迎え、彩りも鮮やかに変化します。

是非、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

◆アクセス方法

富山駅から富山地方鉄道で立山駅まで約五〇分、立山駅からケーブルカーで美女平まで七分、美女平から高原バスで室堂まで約五〇分。

マイカーでは、立山インターから立山駅まで約五〇分、立山駅周辺に駐車し、後はケーブルカー、高原バスをご利用ください。

国指定重要文化財「立山室堂」

地獄谷「鍛冶屋地獄硫黄の塔」

行事・会議等の予定

◎**国有林野事業労働衛生週間**
10月1～7日

◎**木づかい推進月間**
10月1～31日

◎**事業担当部長会議**
10月4～5日　林野庁

◎**森林パノラマウォーク**
10月4日　中信署管内
10月11日　飛騨署管内

◎**金曜会国有林視察**
10月10日　北信署管内

◎**国有林野事業協力者感謝状贈呈式**
10月10日　長野県上松町

◎**名古屋シティ・フォレスター事業**
10月13日　飛騨署管内
10月20日　愛知所管内

◎**森林管理署長等会議**
10月16～17日　中部森林管理局

◎**低コスト作業システム現地検討会**
10月23日　岐阜署管内

◎**林政記者クラブ国有林視察**
10月25～26日　愛知所管内

◎**グリーンボランティア・サミット**
10月19～20日　愛知所管内

◎**森林ふれあい講座**
10月27日　名古屋事務所

◎**指導普及連絡会**
10月29～30日　飛騨署管内

※訂正　第41号の10ページ風景紀行「日本一海から遠い地点」は、「北信森林管理署」を「東信森林管理署」に訂正してお詫びいたします。